

令和5年5月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,809	9,072	4,589	4,483	44	50
2 千 石	4,133	6,851	3,465	3,386	78	72
3 内 山	5,732	7,948	4,242	3,706	62	53
4 大 和	3,570	6,674	3,284	3,390	111	146
5 上 野	7,533	15,482	7,576	7,906	159	210
6 高 見	7,331	13,210	6,318	6,892	75	80
7 春 岡	6,991	10,935	5,776	5,159	69	65
8 田 代	11,339	21,856	10,439	11,417	85	166
9 東 山	10,329	19,043	9,281	9,762	94	101
10 見 付	4,607	8,537	4,275	4,262	70	89
11 星 ケ 丘	3,576	6,825	3,035	3,790	14	22
12 自 由 ケ 丘	3,536	7,193	3,273	3,920	5	4
13 富 士 見 台	6,513	15,153	6,867	8,286	△ 3	2
14 宮 根	3,819	8,066	3,728	4,338	△ 4	△ 11
15 千 代 田 橋	3,743	8,263	3,884	4,379	1	△ 11
千 種 区 計	88,561	165,108	80,032	85,076	860	1,038
R4. 5. 1	86,994	164,698	79,815	84,883	677	777
対 前 年 比	1,567	410	217	193	183	261
名 古 屋 市	1,152,811	2,325,294	1,141,193	1,184,101	5,211	5,366
愛 知 県 (R5. 4. 1)	3,305,610	7,475,630	3,721,764	3,753,866	10,789	△ 7,711

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	89	115	△ 26	2,481	1,417	1,064

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015		
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の世帯数と人口増減の概況

今回は千種区の世帯数と人口増減の内訳を学区単位で見えていきます。

令和4年10月現在の千種区の学区別世帯数は、多い方から田代学区（11,299世帯）、東山学区（10,306世帯）、上野学区（7,418世帯）となっています。世帯増加率（対平成25年10月比）を見てみると、千種区全体では7.1%で名古屋市全体（11.7%）を下回っています。千種区の学区別世帯増加率を大きい順に並べると、内山、千種、千石、高見、大和、春岡学区の順になります（図1）。

また、令和4年10月現在の千種区の学区別人口数は、多い方から田代学区（21,811人）、東山学区（19,184人）、上野学区（15,416人）となっています。人口増加率（対平成25年10月比）を見てみると、千種区全体では1.1%で名古屋市全体（2.6%）を下回っています。千種区の学区別人口増加率を大きい順に並べると、内山（+11.0%）、千種（+6.4%）、高見（+5.6%）、春岡（+4.3%）、星ヶ丘（+3.2%）、見付（+2.1%）学区の順となっています。（図2）

図1：千種区の学区別世帯増加率上位3学区（対平成25年比） 各年10月1日現在

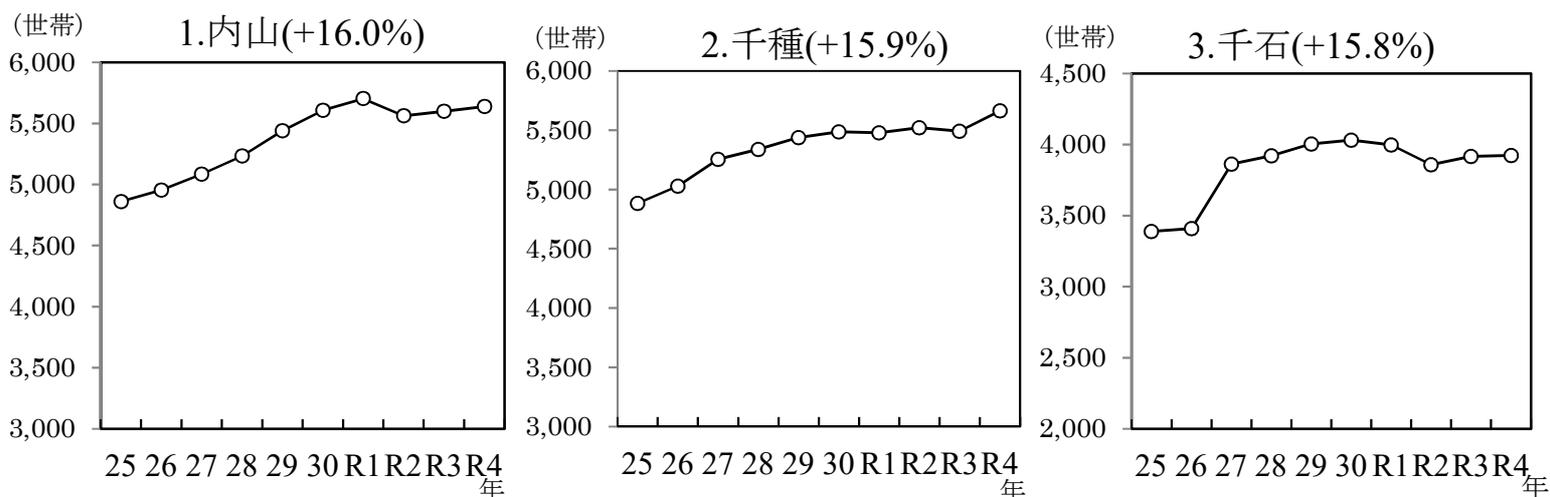


図2：千種区の学区別人口増加率上位3学区（対平成25年比） 各年10月1日現在

